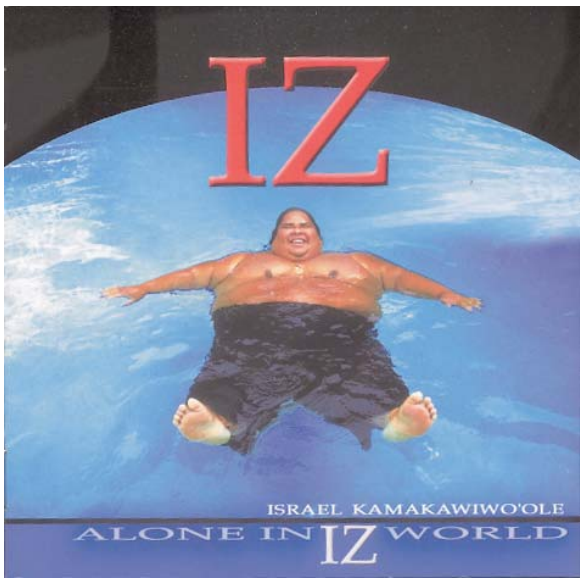
Music

ハワイの心 ”と呼ばれた歌声『イズラエル・カマカヴィヴォオレ』

Text & Photos: George Cockle
文・写真／ジョージ・カックル



ハワイの音楽が好きな人であれば、このアルバム『Alone in IZ world』を見たことがあるに違いない。プールにぷかぷかと浮かぶ巨体の彼がこのアルバムの声の主。彼の名前はイズラエル・カマカヴィヴォオレ。通称イズと呼ばれていた。

俺は周囲にはロックの世界に詳しいラジオ・パーソナリティだと思われているが、(もちろんそれも正しいけど)実はハワイアン歴もかなり長い。十数年前に手掛けたジャワイアンのアルバムを皮切りに、ハワイアンやウクレレなど数多くのアルバム制作に関わってきた。そんな経歴のなか、これまで一番、心を震わせたのが彼の声だ。自慢ではないが(実は自慢!)、コーディネイターとして彼のレコーディングに立ち会ったこともある。日本で流すCMの歌とウクレレを録ったときだ。

あれはもう15年以上前のこと。もちろん場所はハワイのスタジオだ。俺は不謹慎にも海に入っていて、当日は遅れてスタジオに入った。息を切らしてドアを開けると、スタジオには見たこともないほど大きな身体をしたハワイアンが、ウクレレを手に大きな椅子に座っていた。身長は2メートル以上、体重は350キロとも言われていたが、実際に目の前にしてはじめて、それがどれほどの巨漢か実感した。力士だった頃のコニシキの比ではない。俺は背中を押されるようにしてスタッフに彼の前に連れていかれ、挨拶をした。俺は握手をしつつも彼の大きさに圧倒され、思わずスタジオのドアを確認した。機材を入れるために大きなダブルドアがはめ込まれていたが、それでも入れるのかと疑ってしまうほど、彼は大きかった。しかし、その身体からは、不思議なほどポジティブなオーラが放たれていた。ハワイアンのアロハスピリットかもしれない。ひとしきり話したあと、ハワイで一番といわれるプロデューサー、ミラン・ベルトーサが彼と話ながらウクレレとヴォーカルマイクをセッティングしてレコーディングがはじまった。身体があまりに大きくて、ウクレレは巨大なお腹の上に乗っていたから、ウクレレのマイクが彼の息と声をひろってしまうほどだった。しかし彼の身体から出る声は、まさに天使の声だった。歌に心の優しさがにじむ。ハワイでは彼のことを皆、ハワイの心と呼んでいた。

イズラエル・カマカヴィヴォオレは、その数年後、1997年に38歳の若さで亡くなった。原因は心臓マヒだ。その日、ハワイ州の旗は半旗になった。それほどハワイでは偉大な存在だったのだ。葬儀では参列者がマカハからホノルルまで並んだという。そんな彼の肉声に一番近いのが、このアルバム『Alone In IZ WORLD』だと思う。彼が亡くなってから発売されたアルバムだが、ほとんどの曲はギターかウクレレ1本で彼が歌っている。それだけに、優しい歌声が全面に出ている。そしてこのアルバムには、俺もコーディネイターとして参加したときの歌が収録されているという。プロデューサーから電話が入り、あの時のCMの歌を使わせてくれないかと頼まれた。もちろんふたつ返事でOKしたが、実はどんな曲だったか俺も日本のスタッフも誰も覚えていなかった。失礼な話だ。でも言い訳をさせてもらえれば、俺にはそんなことより、彼に会えたことが大事だった。同じ時間に人生を生きながらも、会える人はごくわずかに過ぎない。もしかしたら、このアルバムにあの時の歌は入っていないのかもしれないと思うこともあるけど、もはやそれは関係ない。このアルバムは最高だし、出会いも最高だったから。

ジョージ・カックル●60〜70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com

©George Cockle / On The Board